

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

2026年8月発行

vol. **35**

かわすみ家



綿の花 戦国の世に 黄に白に 紅とりどりに河内野に咲けり

「片時雨」より

特集 / 企画展示 端午の節句展

pick up!
「しぜん・つくる・あそぶ」岡田三朗絵画展
やさしい暮らし 昔にならう

歴史余話

甞れ 日下のホタルたち地域に
受け継がれる、おぜ川の螢の記憶



展示・イベントのご案内

旧河澄家
旧河澄家企画展示

**竹細工
工芸展**

「竹細工の文化を伝える」

2026.9.5 - 9.27

開催時間：午前9時30分～午後4時30分
休館日：月曜（休館日の場合は翌日が休館日）
「大阪府 鶴見池公園のふれあいの森」で豊かな森づくりの活動をしている「鶴見池公園夢の森づくり隊」のボランティアのみなさんの竹工芸作品を展示します。

竹細工ワークショップ
2026年9月6日(日)
四海波花籠づくり
参加費 500円
※当日は、8月6日(木)9時30分受付開始
電話またはお問合わせフォームより

主催/お問い合わせ
旧河澄家 (東大阪市指定文化財)
〒594 大阪府東大阪市南白丁町7丁目6-39
TEL FAX 072-584-1640
開館時間 午前9時30分～午後4時30分
休館日 月曜（休館日の場合は翌日が休館日）
HP <http://www.kiyokawazumike.jp>
SNS 公式LINE アスエル

交通アクセス
・近鉄南大阪線 鶴見池駅より徒歩12分、近鉄けいはんな線 新河原駅より徒歩2分
・近鉄南大阪線 鶴見池駅より徒歩12分、近鉄けいはんな線 新河原駅より徒歩2分
・近鉄けいはんな線 新河原駅より徒歩2分、近鉄南大阪線 鶴見池駅より徒歩12分
※近鉄けいはんな線、近鉄南大阪線は、近鉄グループのバスでご利用ください。

旧河澄家企画イベント

そら やまと
**倭国から「虚空見つ日本の国」誕生へ
～子どもたちに伝えたい郷土の歴史～**
南 光弘氏をお招きして郷土の歴史を学びます。

馬骨(日下遺跡) 河内湖の時代(約1800年前)

日時：令和8年9月20日(日) 13:00～15:00
場所：旧河澄家
定員：20人(成人のみ)
参加費：無料
申込み：8月20日(木) 9:30より
電話、又はお問合わせフォームより

講師：南 光弘 氏 / 東大阪文化財を学ぶ会 会長

主催/お問い合わせ
旧河澄家 (東大阪市指定文化財)
〒594 大阪府東大阪市南白丁町7丁目6-39
TEL FAX 072-584-1640
開館時間 午前9時30分～午後4時30分
休館日 月曜（休館日の場合は翌日が休館日）
HP <http://www.kiyokawazumike.jp>
SNS 公式LINE アスエル

交通アクセス
・近鉄南大阪線 鶴見池駅より徒歩12分、近鉄けいはんな線 新河原駅より徒歩2分
・近鉄南大阪線 鶴見池駅より徒歩12分、近鉄けいはんな線 新河原駅より徒歩2分
・近鉄けいはんな線 新河原駅より徒歩2分、近鉄南大阪線 鶴見池駅より徒歩12分
※近鉄けいはんな線、近鉄南大阪線は、近鉄グループのバスでご利用ください。

展示・イベント

「竹細工工芸展」

2026年9月5日(土)～2026年9月27日(日)

竹細工ワークショップ 「四海波花籠づくり」

2026年9月6日(日)

歴史講座

倭国から「虚空(そら)見つ日本(やまと)の国」

2026年9月20日(日)

「論語の素読会」

毎月第2・第4土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。



かわすみ家

2026
Aug.
vol.

35

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

目次

04 特集 端午の節句展

昔から伝わる、子孫繁栄を願う節句の縁起物について

06 日下之樋 - 歴史余話 -

甦れ 日下のホタルたちーおぜ川に受け継がれる地域の記憶ー

08 イベントレポート

春季ウォーキング くさかの町あれ・これ - 歴史の宝庫を訪ねて -
「もし古事記を大河ドラマ化したら」～ヤマトタケル白鳥伝説編～
端午の節句コンサート 演奏：アンサンブル・ビバーチェ
講談でたどる東大阪ゆかりの歴史 難波戦記 木村重成の堪忍袋
浮世絵
近畿大学峰滝ゼミ REPORT たなばた工作&コンサート

10 Pick Up

「しぜん・つくる・あそぶ」岡田三朗絵画展
やさしい暮らし 昔にならう - 風とあそぶ 竹とんぼとモビールづくり -

12 イベントカレンダー



旧河澄家の自然
河内木棉の花
和名 モメン

アオイ科ワタ属 多年草（一年草として栽培）
ー河内の風土に育まれた、暮らしの記憶ー
河内木棉は、かつて河内地域で盛んに栽培され、木綿織物の原料として人々の暮らしを支えてきました。旧河澄家では、江戸時代の綿作りを記した農書『綿園要務』にならい、化学肥料を使わず、堆肥や油粕などを用いて育



酷暑の中、俯いて咲く棉の花



庭園の南西隅にある畑

てています。今年は厳しい暑さが続き、草丈もやや低く、花もうつむいて咲く姿が多く見られます。水やりにも気を配りながら、暑さの中で花を咲かせる姿に植物のたくましさを感じます。河内の風土と人々の暮らしに寄り添ってきた木棉を育てることは、地域の記憶を今に伝える営みでもあります。



端午の節句展

令和8年4月18日(土)

5月6日(祝・水)開催

今年も恒例の「端午の節句展」を開催しました。会場では河澄家に伝わる甲冑に加え、皆さまから寄贈いただいた五月人形飾り、日下に伝わる「節句幟(のぼり)」「1流(りゅう)」を加えた12点を展示しました。「節句幟」は端午の節句に掲げる幟旗(のぼりばた)類の総称で、江戸時代初期から武家の家で端午の節句の飾りとして屋外に立て並べて、男の子の健康・出世を願うようになりました。

さて、日下では節句をどのようにお祝いされていたのでしょうか。享保五年(1720)頃から享保十七年(1732)正月まで日下村庄屋を勤めていた森長右衛門貞靖の日記の、享保十二年・十三年・十四年・十五年・享保十八年には節句の数日前に「粽いたし候」とあり、粽を作り、誰が手伝ったなども記され、数人がかりで作っていた様子が窺えます。

時代は下って、昭和四十年発行の『枚岡市史 第2巻』には、「五月五日を端午の節句、または男の節句という。



歌川広重「東海道五拾三次之内 二川（現在の愛知県豊橋市）猿ヶ馬場」
【天保4年（1833年）】



葛飾北斎 版画『白須賀（現在の静岡県湖西市）』
【文化元年（1804年）】

四日の夜に、ヨモギと菖蒲を束ねて屋根にあげる。（中略）また柏餅と粽をつくって食べ、菖蒲湯に入る。」とあります。この頃には柏餅と粽の両方が食べられていたことがわかります。馴染みのある柏餅の登場は新しいようです。

勝和餅の誕生

「東海道五拾三次之内 二川」を見ると柏餅は東海道の名物であったことが解ります。葛飾北斎の版画も同様です。地元につながる逸話では、「天正18年（1590）、豊臣秀吉が小田原へ合戦に向かう途中、白須賀宿の西隣の「猿が番場（さるがばんば）」にある茶屋に立ち寄りました。この茶屋の老夫婦が柏餅を秀吉公に振る舞ったところ、「これはうまい」と言って大そう喜ばれました。その後この合戦に勝利した秀吉は、大阪へ帰る途中、再びここへ立ち寄り、上機嫌にて「これは大変縁起の良い餅じゃ。今よりこの餅を『猿が馬場の勝和餅（かちわもち）』と申すべし」と言って、褒美を与えました。その後、「勝和餅」は宿場の名物として広まったと伝わります」（静岡県湖西市HPより）。この頃はまだ、端午の節句と柏餅は結び付いていません。

「俳諧初学抄」（1641年）には、五月の季語に、「柏餅」は含まれていませんが、「酒餅論」（1673年）には記載がありますので、この頃に端午の節句と柏餅が結び付いた物と思われるます。神聖視されていた柏の葉、勝利につながる勝和餅が、武家社会には子孫繁栄の願う縁起物として浸透していったようです。

それでも地域差はあったようで、江戸では主に柏餅、京坂（京都、大阪）では粽という違いがあったようです。幕末の風俗を記した『浪華（なにわ）の風』には、「端午には柏餅を製するは稀なり。すべて茅巻（ちまき）を用ゆ」とあります。※『浪華（なにわ）の風』（大阪町奉行 久須美祐嵩（くずみ すけとし） 安政三年（1856））文久三年（1863）の随筆）

武家社会の関東では縁起の良い柏餅が好まれ、京都に近い関西では伝統を重んじて、流行の柏餅ではなく、古くから端午の節句の食物として定着していた粽（ちまき）が好んで食べられていたようです。各家庭で子供たちを見守り続けた節句飾りは現在、旧河澄家でご来館の皆様をお迎え致しました。粽や柏餅は一年中ありますが、節句の日に限っては祈りを込めて戴くのも良いのではないのでしょうか。

歴史余話

日下之樾

豊かな自然と文化の街、日下

主庭に立つ樾^{かや}の古木は、樹齢およそ五百年
日下の移ろいをみつめてきました。
その記憶に耳を澄まし、この土地の歴史を辿ります。

※「日下之樾」は「くさのかや」と読みます。

甦れ 日下のホタルたち

地域に受け継がれる、おぜ川の蛍の記憶

日下は神話の街、歴史の街、文学者ゆかりの街に加え、ホタルが
自生する街です。単純にホタルが鑑賞できる町ではありません。
ホタルが自生する街づくりのために、それはそれは時間と手間をか
けた作業が繰り返されます。

「東大阪市ホタルの川づくりの会」の皆さんにお話を伺いました。
こちらの会は前身の「ホタルの里づくり委員会」より引き継がれ、
平成14年（2002年）より活動が続けられています。



川に下りて、丁寧に掃除



川を清掃する様子 6月21日撮影

◇手間暇ポイント

その（１）観賞用に成虫を放しているわけではありません。
産卵から幼虫、蛹、成虫、そして産卵と繰り返されているのです。

5月末頃	成虫が卵を産み幼虫になる 以後、水中で過ごす	約10ヶ月間
翌年3月末頃	雨の日に水からあがり草の根元、 葉の裏に移動 蛹（さなぎ）になる	40日間
5月末	羽化して成虫 卵を産む準備をする	ホタル観賞の時期 寿命1週間

◇手間暇ポイント

その(2) エサを撒くのではなく、エサを育てる。

ホタルは、水の中を掃除するカワニナを主食としています。成長途中の3月頃にカワニナ(巻貝)を放流しますが、これは成長した貝で、これがエサになるわけではありません。カワニナはやがて稚貝を生む。この稚貝がホタル(幼虫)のエサとなります。カワニナは、川の中の落ち葉や藻を食べるため、川の環境に左右されます。つまりカワニナが育つ環境こそがホタルの生息に繋がります。

◇手間暇ポイント

その(3) 草引きは時期が大切。

環境づくりのために、川に茂った雑草を抜きますが、これは幼虫が水中で過ごす頃に行い、水から上がった3月以降は逆に触らない事が大切と云います。蛹(さなぎ)も一緒に取ってしまったらいいように注意が必要なのです。手間暇をかけ、すぐには結果が出ない処が苦勞すると話されます。同会の活動目的はホタル観賞ではなく、ホタルが自生する環境づくりを目指しているわけです。

◇活動のきっかけは、川のコンクリート化。

都市化が進み、かつては家の中に迷い込む程、飛んでいたホタルの減少が続く、更に、下水管理設工事のために川床をコンクリートで覆う計画が持ち上がります。ホタル生息地の消滅を危ぶみ、平成12年(2000年)1月より自然を守り昔ながらの環境を守る機運が起こり、石積みの護岸工事計画を策定。各所に陳情を重ね、前身となる「ホタルの里づくり委員会」発足。



平成16年2月
おぜ川改修工事



令和8年6月
おぜ川

各地のホタル生息地視察、勉強会を重ねます。

平成14年(2002年)末〜平成16年(2004年)2月

日下・おぜ川改修工事

平成15年(2003年)6月 ホタルの夕べ開催

平成16年度(2004年) 東大阪市より助成金交付

平成17年度(2005年)5月 ホタルの初鑑賞

同会は毎月第3日曜日に活動をされています。この地道な活動のお陰により、かつて水車小屋が立並ぶ日下の川は、現在ホタルの里として親しまれ、郷土の景色となりました。

令和8年6月12日 89人の方々が川沿いに集まったそうです。特に年配の方にとっては、かつてはよく見られた光景の甦りに大変喜ばれていたとの事です。日頃の苦勞が吹き飛びます。

日下のやさしさがホタルを育て、地道な活動の繰り返しですが郷土の歴史を作り、明日への一歩となります。水車はまわり因果は巡る。

めぐり逢いがホタルの淡い光を未来に結ぶ玉の緒となりますように。

※玉(たま)の緒(お) Ⅱ宝玉を貫く細い糸。万葉の頃より、命や人の縁の象徴として詠われています。ホタルは、水の中を掃除するカワニナ(小さな巻貝)を主食としています。カワニナは川の中の落ち葉や藻を食べるため、川の環境に左右される生き物です。自然の川は、地下水が川の流れと同じ方向に流れています。きれいな川が流れていることは、ホタルは、水やその周辺の自然環境との関係を知る大切な自然のパロメーターではないでしょうか。

東大阪市より助成金 平成16年度(2004年)「東大阪市ホタルの川づくりの会」

毎年美しく飛ぶホタル観賞は成長したホタルを放しているわけはありません。時間をかけて整えられた環境のもとに自生しているホタルを見えています。

旧河澄家にて開催しましたイベント&展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

Kawazumi Report

春季ウォーキング

くさかの町あれ・これ 歴史の宝庫を訪ねて

二〇二六年四月四日(土) 開催

恒例の春季ウォーキングを開催しました。旧生駒トンネルや日下遊園地跡、石切場跡をはじめ、かつて観光名所として知られた「日下の滝」などを巡り、副題の「歴史の宝庫」を実感する一日となりました。平城宮跡や東大阪でボランティアガイドを務める川向章介氏が、自ら用意された資料を示しながら、堅苦しさのない分かりやすい解説で、当時の賑わいや地域の歴史を紹介。参加者からは「地元ならではの説明が分かりやすかった」「嫁いで40年、さらに日下町を知ることができた」「50年前に日新高校へ通っていたが、石切のことはほとんど知らなかった」と好評でした。殊に本年は、映画『国宝』のロケ地となった東大阪市立日新高校にも立ち寄り、映画のシーンを思わせる満開の桜を見学。「映画『国宝』と同じ桜の時期に来ることができて最高」と喜びの声も聞かれ、地元の歴史を改めて知る、時宜を得たイベントとなりました。



映画『国宝』のロケ地
日新高校 春の桜



地元ならではの視点で語る
川向 章介氏

郷土の歴史講座

「もし古事記を大河ドラマ化したら」

二〇二六年四月十二日(日) 開催

近つ飛鳥政経研究会会長・田仲基一氏による「ヤマトタケル白鳥伝説」をテーマとした講演会を開催しました。『古事記』『日本書紀』に登場する英雄・ヤマトタケル(日本武尊)の少年期に焦点を当て、兄を失うという悲劇や、その後の数々の試練について解説。新たな試みとして、田仲氏がAIを駆使して制作したアニメも上映され、参加者は物語をより身近に感じながら、ヤマトタケルの人物像に迫りました。最期は、能煩野で生涯を閉じ、死後は白鳥となって飛び立たとされる伝説にも触れ、日本の美意識「不完全に宿る元璧」について考える機会となりました。



AI 技術が描き出す、
少年期のヤマトタケル



講演をする田仲 基一氏

端午の節句コンサート

二〇二六年四月十九日(日) 開催

「端午の節句コンサート」を開催しました。演奏は、岸和田を中心に活動する音楽グループ「アンサンブル・ビバーチェ」の皆さん。併せて予定していた工作体験が中止となり、無観客も想定される中、「演奏できることがありがたい」という皆さんの思いと、地域の方々の「ピンチはチャンスだよ」という温かいご協力に支えられ、募集人数を上回る30名が来場されました。映画やアニメの人気曲をはじめ、端午の節句にちなんだ曲や曲当てクイズなど、盛りだくさんの演目を披露。アンコールでは、まるで葉加瀬太郎さんを思わせる熱演で、古民家を泳ぐ鯉のぼりの下、会場は「情熱」あふれる「大陸」へと誘われました。多くの皆さまの心温まるご協力に感謝するとともに、楽しく感動の余韻が残る演奏会となりました。



楽しい演奏 アンサンブルビバーチェ



鯉のぼりと古民家 音楽のひとつ



旧河澄家HP
イベント情報

旧河澄家HPイベント情報ページ→ <http://www.kyu-kawazumike.jp/eventinfo/>
Facebook情報ページ→ <https://www.facebook.com/kyukawazumike>
Twitter情報ページ→ https://twitter.com/kyu_kawazumike
Instagram情報ページ→ https://www.instagram.com/kyu_kawazumike/



張り扇の説明をする旭堂南京氏



あたたかなお人柄が伝わる
講談のひとつ

東大阪ゆかりの武将・木村重成を題材にした講談を開催しました。豊臣秀頼に仕えた若武者・重成が、言いがかりをつけてきた山添良寛に怒りをぶつけることなく、争いを避けた逸話から、重成の度量と武士の「堪忍」「義」を描いた一席。物語の結末では、重成への良寛の忠義が胸に迫り、会場から大きな拍手が送られました。鯉のぼりの下という趣ある空間で、講談の世界を身近に感じていただくひとときとなりました。また、手づくりの張り扇を使った体験では、参加者の皆さんが実際に張り扇を手にし、講談の魅力を体感。講師の方をご紹介くださった筑前琵琶奏者・門井旭蓮さんにもご協力いただき、心に残る催しとなりました。

協力：上方講談協会

講談でたどる東大阪ゆかりの歴史

木村重成の堪忍袋

二〇二六年四月二十九日（祝）開催

浮世絵展

二〇二六年五月十六日（土）

〓 六月十四（日）開催

一級建築士で河内いえ・まち再生会議の理事長小原公輝氏のご協力により、「浮世絵展」を開催しました。本展示は小原氏が古民家を見守っていた際に引き取りました、書籍「浮世絵体系」全十七巻より、浮世絵師歌川広重（うたがわひろしげ）が描いた「東海道五拾三次」の各宿場の風景と、そこに描かれた建物や人々の暮らしぶりに関する解説をパネル展示致しました。小原氏は「貴重な書籍であり、より多くの人に見ていただきたい。」と云います。浮世絵「東海道五拾三次」には街道沿いの名所・名物が描かれています。また同じ地名でも現代とは違う表記（例えば、ちりゅう、旧「池鯉鮒」↓新「知立」・現在の愛知県知立市）、また現代では行われていない馬市（馬を売買する市場）が描かれています。小原氏は言います。「江戸時代の自分になった気持ちになって鑑賞して下さい。」室生犀星は『ふるさと』は遠きにありて思うもの『抒情小曲集大正7年（1918年）』と詠います。東海道沿線より関西に離れた方には、住んでいた頃は、近くに有りすぎるが故に却って気が付かなかった郷土の情景を見つめるきっかけに成りましたら幸いです。

峰滝ゼミ

近大 畿学
KINDAI UNIVERSITY

たなばた工作&コンサート



令和8年7月5日に開催した「たなばた工作&コンサート」は、峰滝ゼミ16期生としての初めてのイベントで、「成功するか、上手く行くかな」といった不安も多くある中、当日に参加者が大幅に増えるというアクシデントに見舞われながらも、沢山の方々の協力のもと無事に終えることができました。今回のイベントを通して、峰滝ゼミのイベント担当として最も感慨深かったのは、歴史ある旧河澄家の静かな空間に、子供たちの元気な笑顔と楽器の美しい音色が響き渡ったことです。工作の時間には、真剣な表情で短冊に願いを書き、ミニ笹竹を彩る子供たちの姿が見られ、それを寄り添いながら優しくサポートするゼミ生の姿も見ることができました。親御さんにも温かく見守っていただけて、全体として楽しいイベントになったのかなと思います。また、その後のコンサートでは、古民家特有の木の温もりを感じる音響の中で、来場者の皆様が一体となって音楽に耳を傾ける姿が非常に印象的でした。

「しぜん・つくる・あそぶ」 岡田三朗絵画展

古民家に広がる、
やさしい自然の世界

旧河澄家主屋で、「しぜん・つくる・あそぶ 岡田三朗絵画展」を開催しました。

92歳の岡田三朗さんは、世界で初めて折る刃式カッターナイフを生み出したオルファ株式会社創業に携わった一人。また、「おまけ文化の会」名誉理事長として、ものづくりや絵画を通じて、長年にわたり創作の楽しさを伝えてこられました。

会場には、草花や生きものを描いたスケッチ画や切り絵をはじめ、魚を描いた全長約3.6メートルの巻き絵、石や紙など身近な素材を生かした作品など、さまざまな作品が並びました。素朴であたたかみのある作品からは、自然を見つめる優しいまなざしと、つくることの楽しさが伝わってきます。

会期中には、岡田さんともご家族と一緒に来館してくださいました。また、以前岡田さんとお仕事をされて

いた方や、絵画を通じてつながりのある方など、多くの方が作品を見に訪れてくださいました。岡田さんとのつながりや作品への思いを語られる姿からも、長年にわたり育まれてきたご縁の広がりを感じることができました。あたたかく優しいご家族の姿も印象的でした。

またたくさんの方に昔ながらの工作遊びを楽しんでもらおうと、岡田さんは蝶々や鳥、トンボなどの「ひらひら」をたくさん用意してくださいました。素朴な手づくりおもちゃ「ひらひら」を手にした皆さんの笑顔が、会場をさらに和ませてくれました。

今では、身近なものを使って何かをつくったり、自然の中で遊んだりする機会も少なくなりました。岡田さんの作品には、私たちがいつの間にか忘れてかけている「つくること」「あそぶこと」の楽しさが詰まっています。

自然に囲まれた旧河澄家で、作品を眺め、手を動かし、風に揺れる「ひらひら」を楽しむ。そんなひとときを通して、日々の暮らしの中にある小さな喜びを、あらためて感じることでできた展覧会となりました。

協力：宮本順三記念館 豆玩舎 ZUNZO



さまざまな作品が展示されました



岡田三朗氏（展示作品を背景に）

七夕飾りの短冊を書いていただきました



やさしい暮らし 昔にならう

風とあそぶ竹とんぼと モビールづくり

昔の暮らしには、身近なものを使って自分でつくり、自然の風や季節の変化を感じながら遊ぶ、ささやかな楽しみがありました。便利なものに囲まれた今だからこそ、そんな昔ながらの知恵や時間を、暮らしの中に取り入れてみたいものです。

今回は、岡田三朗さんの作品展に関連して開催した、手作りおもちゃ体験「風とあそぶ竹とんぼとモビールづくり」をご紹介します。

グリコのおまけデザイナー・画家として活躍した宮本順三さんと、オルファ株式会社の創業に携わった岡田三朗さんは、ともにものづくりを通じて活動されてきました。今回は、宮本順三記念館・豆玩舎 ZUNZO の磯田さんに教えていただき、岡田さんがデザインしたモビールを制作しました。風を受けてゆっくり揺れるモビールを、自分の手でつくる楽しさを味わいました。

続いては、国際竹とんぼ協会の大東利行さんによる竹とんぼづくり。羽を紙やすりで少しずつ削りながらバランスを整え、よく飛ぶためのコツや技術を教えていただきました。実際に飛ばしてみても調整を重ね、自分の手で仕上げていく楽しさを味わいました。

完成した竹とんぼは、旧河澄家の北側にある空き地へ。風を受けて空高く舞い上がる竹とんぼを見上げながら、参加者の皆さんは、つくる楽しさと遊ぶ喜びを存分に味わいました。

自分の手でつくる。自然の力を感じる。試して、工夫して、遊ぶ。そんな昔ながらの時間には、今の暮らしにも取り入れたい、心豊かに過ごすためのヒントがあります。旧河澄家での体験を通して、昔から受け継がれてきた「やさしい暮らし」の知恵を、あらためて感じるひとときとなりました。

協力：国際竹とんぼ



北側の土地では、楽しそうに
竹とんぼ飛ばしていました



竹とんぼやモビールを楽しそうにつくるみなさん



2026年8月～ 旧河澄家 イベントカレンダー

沢瀉は、池や田に自生する水草で、古くは貴族の車や武具の文様として用いられました。葉の形が矢に似ることから、別名「勝ち草」とも呼ばれ、武家の家紋として人気がありました。

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性があります。詳しくはお問合せください。

竹細工工芸展

9/5 (土)

～9/27 (日)

毎年恒例の端午の節句展を開催します。本展では、「大阪府蜻蛉池公演のふれあいの森」で豊かな森づくりの活動をしている「蜻蛉池公園夢の森づくり隊」のボランティアのみさん達の竹工芸作品を展示します。



見学無料

竹細工ワークショップ 四海波花籠

9/6 (日)

「蜻蛉池公園夢の森づくり隊」竹かご教室の皆さまにご指導いただき、重なる波を思わせる曲線美の美しい竹籠をつくります。日本の風土が育んだ竹という素材に触れ、四海波花籠（しかいなみはなご）づくりを体験してみませんか。



参加費 500 円

歴史講座 倭国から「虚空見つ日本の国」誕生へ

9/20 (日)

河内湯が広がっていた古代の日下の風景や、日下遺跡から出土した馬骨などの資料を通して、「虚空（そら）見つ日本（やまと）の国」と称えられた大和の国へとつながる古代の歴史をたどります。

東大阪文化財を学ぶ会会長 南光弘氏をお招きして、郷土に息づく古代の歴史について学びます。



参加無料

論語の素読会

毎月
第2・第4
土曜日

声に出して文字を読む「素読」。

素読は、江戸時代の寺子屋で活用されていた学習方法でした。素読で読む文書として中国の古典「四書」がよく使われています。その中のひとつに「論語」があります。「論語」は、孔子とその弟子の中でも優れた人物たちの言語をまとめた書物で、心を打つ章句が詰まっています。古来から大切にされてきた生き方や考え方を学びませんか。



参加無料

きゅうかわずみけ

東大阪市指定文化財 旧河澄家

見学無料

所在地 〒579-8003 大阪府東大阪市日下町7丁目6-39
電話番号 TEL/FAX 072-984-1640
ホームページ <http://www.kyu-kawazumike.jp>
開館時間 午前9時30分～午後4時30分
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）
祝日の翌日・12月29日～1月3日
入館料 無料
駐車場 5台（無料）
満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

◆アクセス方法

公共交通機関をご利用の場合

- ・近鉄奈良線「石切駅」より北西へ1.2km
- ・近鉄けいはんな線「新石切駅」より北東へ2km
- ・近鉄奈良線「東花園駅」または近鉄けいはんな線「新石切駅」より、近鉄バス「四条畷行き」または「住道行き」に乗り「南日下」バス停より東へ800m
- ・JR学研都市線「住道駅」または「四条畷駅」より、近鉄バス「東花園駅前行き」に乗り「南日下」バス停より東へ800m

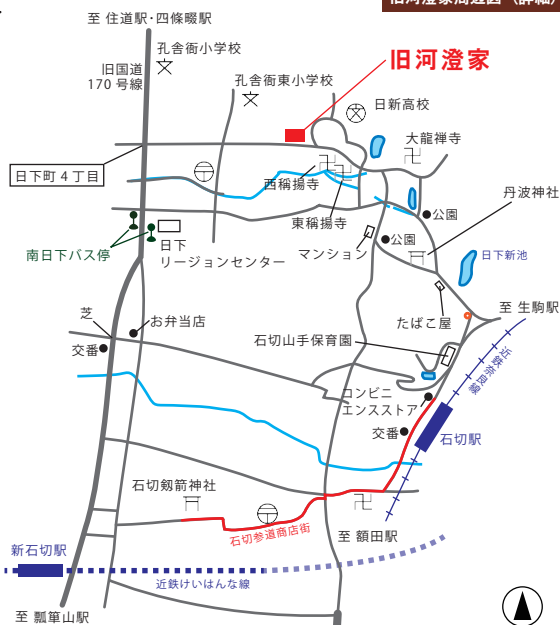
マイカーをご利用の場合

- ・旧国道170号線「日下4丁目」交差点を東へ、約600m直進

◆指定管理者 株式会社アスウェル TEL: 072-939-7861
FAX: 072-952-4340

URL <http://www.asuwell.co.jp>
E-mail mail@asuwell.co.jp

旧河澄家周辺図（詳細）



株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認証を取得しています。

